

第1回教育懇談会 保護者300人超す盛況

「挑戦する大学めざす」崎田学長あいさつ
就職問題にも関心集まる

本学の保護者を対象にした第一回教育懇談会がこのほど宝塚キャンパスで開かれました。保護者のみなさんに本学の教育の考え方や具体的な対策を改めて理解してもらい、より教育効果をあげていこうというのが目的です。本学で初めての試みでしたが、会場のアートヒルホールには300人を超える保護者のほか、学生の姿もあり、盛況でした。

冒頭の挨拶で崎田学長は「授業内容のいっそうの充実につとめるとともに、社会人として必要な基礎教育にも力をいれて改革をすすめている」と次のように述べました。

社会人への基礎教育の充実、 看護学部の新設など教育改革を

崎田 喜美枝 学長

本日は、お足もとの悪い中、またご多忙の中、このように多数の保護者の皆様に教育懇談会にご参加いただき、ありがとうございます。そして日ごろ本学の教育に深いご理解とご協力をいただいていますことを心よりお礼申し上げます。

本日の教育懇談会を開くにあたり、学長としてひと言、ご挨拶をさせていただきます。

宝塚造形芸術大学が4年制の大学として開学して今年で22年になります。大学として歴史の浅い、規模の小さい大学ですが、「芸術と科学の協調」という基本理念のもとに、教育と研究を進めております。

私どもの大学の特色はいくつかありますが、その一つに「挑戦する大学」ということがあります。新しい分野に果敢にチャレンジを続けて行く大学だということです。

従来の芸術デザインの分野からいち早くコンテンツ系に進

み、また大阪 梅田に都心型のキャンパスをつくりました。4年前には東京 新宿にもキャンパスを設け、大学院と学部の学生が数多く学んでおります。また3つのキャンパスを通信回線でつないだサイバー授業も新しい試みとして行っております。

さらに、来年春は大阪 梅田キャンパスに看護学部を開設の予定で、その準備を進めているところです。また現在は造形学部とメディア・コンテンツ学部の2学部を造形芸術学部と一つの学部を集約し、より充実した教育ができる体制を考えています。

芸術系の大学が医療系に進むのも、この「挑戦する大学」だからこそであり、医療の分野が感性豊かな医療人を求めている時代に応えようという考えです。ご理解いただければ幸甚です。

本日は教務課から学習関係について、また学生課から学生生活について、就職室からは就職支援についての話をさせていただきます。

大学として最も重要だと考えているのが、カリキュラムの改革と充実です。今年の3月、日本高



本学の看護学部開設記念講演

安藤忠雄先生が「個人の自立とチームづくり」をテーマに 夢と勇気とリアリティ 自分を超えよう

本学の看護学部開設(来年度から予定)を記念して建築家、安藤忠雄さんの公開講演が8月28日、大阪梅田キャンパスで行われました。午後6時半と午後8時の2回、ともに超満員で計約1200人が熱弁に聴き入りました。



講演会場で自著にサインする安藤先生。売上金の一部は恵まれない子どもたちのための募金になる

講演は『個人の自立とチームづくり』をテーマにそれぞれ約50分。安藤さんは、勇気を持って不況を吹き飛ばせ、仕事は自分で積極的にみつけよう、知識だけでなく現場に合ったリアリティを、夢に向かって自分のエネルギー以上のものを発揮しよう、などユーモアを交えてチャレンジ精神を訴えました。豊富な画像を示しながら、自分の経験に根ざした話だけに具体的に説得力があり、会場に元気いっぱい風の吹きつけました。

講演の要旨は次の通りです。・・・・・・・・

「個人が自立することの重要さはいくまでもありません。けれど、ひとりの力はタカがしれていることも事実です。いろいろな人たちと力を合わせることで、それぞれの個性が発揮され、より大きな、魅力的な作品や事業が実現します。1992年、セビリア万博で私は日本館の建設をまかされました。そのとき、たくさんのヨーロッパの人たちに参加してもらいました。むろん日本人が総合的な指揮はとります。けれど、各部分は外国の人たちの意見をとり入れて成功しました。

日本の会社組織でも、若い人たちの意見を積極的に吸い上げていくことが大事です。若い社員が課長にあるプランを提案する。課長は黙って賛否を言わない。のちに部長が、そのプランは面白い、と賛成すると、課長もあわてて、それは面白い、と言いつつ。日本の組織はそういうところがあるでしょ。

一流大学を出た人はなるほど学力はある。しかし、いざ設計をしてもらおうと頭でっかちで現場の実情にそぐわないことが多いです。よく現場、現実を見ること、そのリアリティ感覚、応用力が重要です。これは建築現場だけに限ったことではないはずですよ。

日本の若者は、よく言えば行儀がいいが、逆に意欲、やる気、好奇心、バイタリティのようなものが乏しいように思います。台湾、中国、韓国などの若者が私の事務所によく来ます。建築現場に連れていき、ここから向こうへ行っちゃいけない、と注意します。日本の若者は忠実に守る。ところが外国の人たちはかえって好奇心を燃やしてそちらへずかずか踏み込んでいく。まあ、マナーは大切だけど、それを乗り越えるような活力、好奇心も大事だなと感じたりします。

私自身は中学二年の時、自宅を改造する現場を見て、建築の世界に興味を持つようになった。独学で建築を勉強し、学歴はなかったが、大阪は私にチャンスを与えてくれた。

私の先輩たちはすごい。淀川だって洪水を防ぐために明治時代に流れのコースを大きく変えた。六甲山だって明治の初め、伐採で全山ハゲ山だったのを人力で森に変えたんです。

いま、不況でたしかに大変だが、社会をよく見よう、本を読み、音楽を聴き、映画をみよう。社会には多様な風が吹いています。あなた自身の発想が大事です。必ずチャンスはある、夢は生まれる、それに向かって勇気を出して進もう」

等教育評価機構による認証評価で、本学は認定を受けました。大学として運営、設備面、教育内容などについて詳しいチェックを受け、高等教育機関としてきちんと出来ているというお墨付きをいただいたわけです。

しかし、それで満足しているわけにはまいりません。教育内容についてはそれぞれの学科・コースの専門教育、つまりクリエイターに育つように授業内容を充実させるのと同時に、社会人として必要な基礎教育が一層大切な時代になっているとの認識で、さまざまな改革を進めています。大学は出たが就職できない、あるいはそうした意欲が持てないというようなことがないように、社会に出ても通用する人材に育てたいと考えております。

ご承知の通り、昨年秋以降の世界的な経済不況の中で大学生の就職状況も急激に悪化しています。そこで、本学としても就職支援に力を注いでいきます。この会場のひとつ上の階に就職室があります。企業からの求人票なども張り出しています。お帰りにのぞいていただければと思います。

そして、東京へ就職する人の多い昨今、東京近辺の就職の情報も東京 新宿キャンパスをおおいに活用していただけると考えております。

最後に保護者の皆様方へお願いがあります。それは、お子さまたちとのコミュニケーションのことです。地方から来ている学生では、慣れない一人暮らしのために生活のリズムが乱れたり、あるいは、最近アルバイトをする学生が多いのですが、アルバイトに傾斜しすぎて学業がおろそかになってしまうケースもあります。卒業近くになってから単位が足りないことを保護者の方が初めて知ってあわてられるというケースのないように、学生のみなさんの出席状況や単位の取得状況などについて、担当教員や教務課ができるだけこまかく把握し、保護者のご家庭への連絡もさせていただいておりますが、どうかご家庭でもお子さまがどういう状況にあるのか知っていただき、必要なことはどうぞ遠慮なく大学に連絡なり相談をしていただければと思います。

本日はこの教育懇談会終了後に、ご希望をいただいた方には個人懇談の時間もあります。限られた時間ですが、有意義な懇談会になるよう願っております。

ありがとうございます。

このほか、社城毅教務部長ら教務担当者が学生の成績・単位修得状況について、吉村誠学生部長ら学生担当者から学生支援態勢についてそれぞれ説明がありました。また、吉村学生部長は学生がいま問題になっている薬物乱用などに陥らないように保護者への協力を親しみのある口調で呼びかけました。

学生が自立した社会人となる道筋を！ 教職員は一体となって取り組む

吉村 誠 学生部長

こんにちは、吉村です。ふだん教室では、メディア・コンテンツ学部先生として、テレビ番組や映画やアニメなど映像表現の基本について教えています。



また、廊下や食堂や研究室などキャンパスの色々な所で、学生の皆さんと、勉強や就職やアルバイトや恋愛について話を交わしています。大学生と言っても様々でして、18歳なのにとってもしっかりとした人、22歳なのにまだまだ幼いと思う人、色々です。

先日、法制審議会の報告書で、成人年齢を18歳に引き下げるのが適当だ、との考えが示されておりましたが、18歳であろうと、20歳であろうと、また30歳になろうとも、親御さんの眼からすれば、わが子は幾つになっても未熟で頼りないものです。

で、大学というところは、その子供たちを、精神的に、そしてやがては経済的にも、自立した人間に育ててゆくための時空間です。自立した一人の人間として生きてゆく力、の基本となるのは、健やか体と健やかな心、です。

皆さん方、保護者の方々、と私たち大学の教職員は一緒になって、そのための環境を整えてやらなければいけません。家庭と大学は協力し合って、子供の自立に気を配ってゆきたい、と考えています。

さて、まもなく夏休みに入ります。暑い日射しの下、心の健康、体の健康が揺るぎやすい季節です。お手元に、平成21年度版の学生生活のしおり、

親の気持ちはわかるけど、あまり詮索されたくない

●母はあれこれ詮索するのではありません。「どうして内定決まらないの？」とか、「ここではどんな受け答えをしたの？」と細かいところまで聞いたあげく、「だからダメだったのよ」という小言になります。お金を出してくれていることも、私のためをおもってくれていることも、よくわかるのですが、面接などの日は帰宅するのが憂鬱になります。

●私は農業関係の仕事をしたいのに、親は「農業はいつでもできる。はじめは一般企業に就職した方がいい」と聞きません。企業の情報を集めていても、つい、農業の方に目が向いていきます。いまのままではどっちつかずになってしまうような気がしてなりません。

●同じゼミのなかでも決まっていなは私だけ

【保護者の悩みに答える】 つぎに保護者の不安や悩みの相談です。数人の専門家が答えています。その問答を要約しました。

「どんな会社がつぶれない、安全な会社なのでしょう？」

つぶれない会社探しより、本人の生き抜く力を！

この悩みには、かわいいわが子を、会社にとってもらいたい、そういう姿勢がうかがえますね。でも大きな企業でも倒産する例をいくつもみえました。そう考えると、いかにつぶれない会社を探すかではなく、どんな時代になっても生き抜く力を、個人がいかに身につけておくかのほうが大事なのは、なにごと受け身的に教えられるのではなく、日ごろの仕事のなかで問題に気付く、解決するために何をすればいいのかを考え、自分で行動して成果を出す、そのような自律的な力を身につけることが必要です。

毎日イキイキ過ごせる職場を

そのためにいま、どんな選択をしたらいいのかを、本人が就職活動のなかで徹底的に考える——就職活動からしてすでにこの自律的な力を育む一歩がスタートしているといつてよいのです。保護者があれこれ準備するのではなく、本人に徹底的に考えさせる、この姿勢が重要でしょうね。

大事なことはつぶれない会社を探すのではなく、自分が毎日イキイキ過ごし、やりがいのある仕事ができる会社を探すことです。

就職に関して保護者から非常に細かい相談を受けます。エントリーシートの書き方とか、自己分析の

になりました。正直、焦っています。家族に弱音を吐くと「あんたなら、絶対行きたい会社に受かるで。自信をもってがんばってや」と応援されます。元気が出てきます。

就職の意味、なぜ働くか、をあらためて考えたい

●親に『なんのために私は働くのか』と尋ねたら『生活のためだ』と夢のないことを言われた。それで働くことに夢がなくなり、就職活動にも力がはいらなくなった。しかし、社会人の話をいろいろ聞くと、仕事は生活のためだけでもないようだ。親には自分の経験を通じて得た働く喜びみたいなものを教えてほしかった。親は夢ばかり見るな、という戒めをこめて言ってくれたのだと思うけど。私はなぜ働くのか、就職するのかをあらためて考えてみたい。

やりかた、など。保護者に望みたいのは、子どもと一緒に就職活動をおこなうのではなく、社会人の先輩として自立への成長をサポートしてあげて欲しいと思います。

「やりたいことに近づけるからと契約社員や派遣などを選ぼうとしている。正社員になってほしいのだが」

情報の偏っていることが多い、一度よく話し合おう

「3年後には実家の仕事を継ぐ、それまでにスキルを磨くために派遣を」というしっかりした学生もいますが、正社員と非正社員の処遇の違いが実際にどれくらいあるか理解できていない人もいます。月収だけで考えれば、新入社員の給料よりもアルバイトや派遣でがんばったほうが手取りはよかったです。ボーナスや昇給を考えるとやがて大きな違いになるのがわかって、考え直すケースもよくあります。情報が偏っていることが多いので、一度よく話し合ってみたらどうでしょう。

最近の就職試験の傾向として一般常識を問われるケースがふえています。このため、本学では前期の就職活動応援セミナーで3年次生を対象に英語、数学、国語の模擬試験を実施しました。北太久也就職室長は「こうした問題になれてもらうため、後期にもう一度、予定しています。」と話しています。

をお渡ししておりますのでその中から幾つかを採り上げて目を通していただきます。

まず、
○薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ」

言うまでもなく、大麻や覚せい剤のことです。どうして？って聞かれたら、「一時の快樂、一生の苦痛」「一人の楽しみ、まわりの皆の苦しみ」と私は応えるようにしています。保護者の皆さん方もどうぞ自分の言葉で、わが子に語ってやって下さい。

次に、
○悪徳商法に気をつけよう！

夏休みでちょっと小遣いを使い過ぎて親御さんにも無心を言いにくい、そんなタイミングで、「なあなあ簡単に儲かるバイトあるねん。」と声がかかります。そんな時は、こう言いましょう。「ホントに儲かる話なら絶対、他人なんかには教えへん！」お父さん、お母さんが、どんなに苦勞してお金を稼ぎ子供の学費を出しているのか、是非話をしてあげて下さい。日常会話の中にこそ人生教育はあります。

そして、
○カルト宗教団体の勧誘に注意しよう！

これは、とても生真面目な学生さんこそ要注意

です。友達みんなと一緒に遊ぶことなんかは苦手で、人生や世界について一人で考えている人。そんな子供さんに声がかかります。「不安なんかなくなるよ」と。でも考えてみてください。人生は、40になっても50になっても60になっても、死ぬまで不安だらけですよ。私なんか不安のかたまりです。これについては、こう考えています、「不安は夢の裏返し」だと。幾つになっても沢山の夢と希望を持っているからこそ多くの不安も抱えている、のだと。

幸いにして、私たち宝塚造形芸術大学では、以上のような点で大きな問題は起きてはいません。これは、保護者の皆さん方の日ごろからの気配りの努力の賜物だと思っています。そして、この3つの注意点だけでなく「人生でのうまい話」は疑ってかかること、疑うには力が要ること、「疑う力を養う」ことこそが大学教育の目的であることをご理解いただきたいと思います。

「学生生活のしおり」はどうぞご家庭で一度ゆっくりと目を通して下さい。なにはともあれ、保護者の皆様方と、私たち大学教職員と一緒にあって、この宝塚造形芸術大学から「素敵な大人たち」を育ててゆきたいものだ、と思います。

厳しさを増す就職環境への心構え

保護者がいま、もっとも関心をもっているのは学生の就職問題です。これに関連して、日頃、本学就職室と連携し学内での「就職ガイダンス」「就職活動支援セミナー」の企画・講演などの支援をしている株式会社リクルートの担当者が「学生を取り巻く就職環境」について話し、保護者向けの小冊子などを配りました。このふたつを以下に要約しました。

● ● ● [就職活動のスケジュール] ● ● ●

3年次生の
10月

**情報収集
エントリーのスタート**

一般的にいうと、学生の就職活動は3年次生の10月ごろからスタートします。まず、企業の情報集めです。昔は自宅に送られてくる企業情報誌から興味のある企業を選び、資料請求ハガキを記入して送るのが普通でした。いまはネットにオープンした就職

情報サイトで、希望する企業を選び、エントリーします。むろん、これは採用試験の応募ではなく、企業の情報収集の第一歩です。

3年次生の
冬休み

**インターンシップの季節
仕事の意義を実感しよう**

冬休みは夏休みと並んでインターンシップの季節

です。一部の企業では採用に結びつくこともあります。採用に直結しない場合が多いのですが、働くこと、仕事の意義を実感するのに役立つので積極的に参加することをすすめます。

企業の会社説明会も増えてきます。仕事内容がよりくわしく理解できる良い機会です。開催情報や予約などはネットで公開され、事前にエントリーしていた人にだけ通知が来たりします。以前は採用の選考もここで同時におこなうケースが多かったのですが、いまは必ずしも直結していません。

3年次生の 2月 活動のピーク エントリーシートの提出

いよいよ就職活動のピーク。志望する企業に「エントリーシート」を提出せねばなりません。エントリーシートの提出は一人平均約25通、というデータもあります。一般の履歴書は氏名、住所、学歴などを記入しますが、エントリーシートはこれらに加えて、「当社を志望する理由、当社で何をやりたいか、学生時代に取り組んだこと」など各企業が独自に質問項目を設けています。企業はこれによって、より深く本人を知り、充実した選考をおこないたいというわけです。具体的な自己アピールや、よりくわしい志望の動機が問われることとなります。エントリーシートをもとに書類選考をする企業も多いそうで、学生もどう記入するか、真剣に取り組まねばなりませんね。

4年次生の 4月 面接・選考の本番 大学推薦より自由応募が大勢

多くの企業の面接・選考がスタートします。企業によってはもっと早い時期からおこなっているところもあるので、みなさんは情報収集につとめ準備をすすめておくことが大事です。面接・選考のやりかたは、マンツーマンの個別面接、複数の学生でおこなう集団面接、グループによるディスカッションなどさまざまです。多くの企業は6月ごろまでに内定を出します。以前は大学側の推薦を重視する企業が多かったのですが、近年は自由応募の学生が多くなり、さまざまな大学の学生のなかから選考するケースがほとんどとなりました。学生は自発的に各企業の情報を集め、積極的に自分の意思で行動、決断することがますます必要になってきました。

4年次生の 10月 内定へ 就職活動費用は15万円～20万円

夏休み前ごろまでには多くの企業が新卒一括採用をすませます。そのあと10月はじめに内定者を集めた内定式や内定者懇談会を開いて正式に内定承諾書を交わします。なお、就職活動にかかる費用はしめて約15万円～20万円というデータもあります。

最後にいいたいのは、業種や職種をはじめから狭く絞ってしまわないこと。業種、職種ともにそれぞれ3つほど幅を持たせるようにしたらどうでしょう。たとえば、広告という業種なら、デザイナー、営業、事務職、と3つの職種をあげるなど。実際に仕事についてみると、自分の才能や好みははじめ思っていたより幅広いものです。

就職活動中の子どもに親はどう向き合えばよいのだろうか

【子どものホンネ】

親は不安でいっぱいです。でも、子どもも苦しんでいます。親はどうすればいいのでしょうか。まず、子どものホンネを知りましょう。専門家の人たちが集めたデータです。

親とはある程度の距離を置きたい

●まだ内定ゼロです。親はいろいろうるさい。「どうしてなの？どんな就職活動やっているの？この企業ならよさそうだから、エントリーしたら」などと無責任にすすめたりします。これがストレスになる

のです。親の心配もよくわかるけど、ある程度距離を置くのがいいと思います。ふだんはおおまかな報告だけをして、具体的に困ったことがあれば、相談するというスタンスがよいのではないかと思います。